

○記号・略語の説明

◆…事業計画書にある項目

◇…事業計画書にない項目

重…重点事業

募…共同募金配分事業

〇〇から受託…受託事業

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-1
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	法人運営		

【事業報告】

(1) 法人運営

◆評議員会、理事会、監査会の開催

評議員会	4回
理事会	4回
監査会	4回

◆各委員会の開催

経営企画委員会	5回
評議員選任・解任委員会	2回（内、書面決議 2回）

◆例規管理

◆法人沿革整理

◆視察受け入れ

実績	0件
----	----

(2) 労務管理業務

◆人事管理、職員採用、資格取得支援

◆福利厚生

◆健康診断、ストレスチェック

◆ハラスメント対応

相談件数	0件
------	----

(3) 施設管理業務

◆施設管理

◆備品管理

◆車両管理

◆貸館業務

(4) 福祉サービス苦情解決事業

◆第三者委員会の設置（共同設置）

介護保険サービスおよび障害福祉サービス利用者等がサービスを適切に利用できるよう支援することを目的に、三重郡内の社会福祉協議会と施設（三重郡老人福祉施設組合 みずほ寮、社会福祉法人檜の里 あさけ学園）が共同で設置している。

◆苦情の受付、解決業務

介護保険サービスに関する苦情	16件（内、未解決0件）
障害者総合支援サービスに関する苦情	10件（内、未解決0件）

上記以外の苦情	24件（内、未解決0件）
第三者委員会の開催	2回
第三者委員苦情解決相談会の開催	1回 相談件数 0件

(5) 権利擁護事業 **重**

◆成年後見制度の利用支援

成年後見制度や任意後見制度について説明し、利用に向けた手続きのアドバイスを行った。

◆法人後見受任者支援

受任件数 3件（後見3件）

新規 0件

終了 0件

◆法人後見委員会の開催

4回

(6) 社会福祉法人地域公益活動の取り組み

◆三重県社会福祉法人地域公益活動事業への参画、協力

みえ福祉の「わ」創造事業への参画

◆町内社会福祉法人連絡協議会への参画、協力

法人連絡協議会の開催 2回

(7) 経理業務

◆会計業務

(8) 菰野町福祉基金の活用

◆基金の運用・管理

篤志寄付 28件

篤志額 1,670,016円

寄贈物品 米、もち米、緊急支援物資（食品）

福祉基金活用額 2,500,000円

年度末積立総額 175,244,439円

◆地域福祉発展事業資金助成事業

母子父子寡婦福祉会

ひとり親家庭向けフード&日用品ドライブ事業

10,257円

菰野町心身障がい者福祉会

令和6年度 県外研修旅行 100,000円

◆認知症カフェ事業への助成

認知症カフェ事業（管理No.2-1-7）に記載

◆地域の茶の間事業への助成

千草大人の女子会へ 24,000円

◆住民参加型在宅福祉サービスグループへの助成

地域福祉活動モデル事業（管理No.1-1-3）に記載

【まとめ】

- 寄付額は令和5年度より減少した。毎年寄付いただいている篤志者からは令和6年度も継続してご寄付いただいた。米の寄贈が例年より多くあった。
- 法人後見業務について、後見委員の弁護士に相談し専門的なアドバイスを得て業務にあたった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-2
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	ボランティア事業		

【事業報告】

(1) ボランティアセンター事業

- ◆ボランティア活動の支援

(2) 啓発推進事業

- ◆広報紙「みんなのふくし」の発行 **募**
全戸配布（月1回発行）
- ◆子育て通信「こもっ子 mama」の発行 **募**
子育て支援事業（管理No.1-2-4）に記載
- ◆SNSを活用した広報・啓発活動
- ◆YouTube「けやきチャンネル」の配信
- ◆けやきフェスタの開催 **募**
- ◆地域福祉教育推進事業の支援および推進 **募**
- ◆福祉協力校事業 **募**
依頼件数：19件（内、社会見学受け入れ4件）

(3) 養成研修事業

- ◆地域サポーター養成講座 **募**
1回 28人
- ◆各種ボランティア養成講座の開催
点訳ボランティア養成講座 全5回 延べ22人

(4) 登録斡旋事業

- ◆ボランティア登録業務
 - ①ボランティア活動者数

個人ボランティア数	94人
団体数（福祉ボランティア活動を主目的）	426人（41団体）
団体数（福祉ボランティア活動以外を主目的）	61人（6団体）
 - ②ボランティア連絡協議会登録者数 267人
- ◆ボランティア斡旋業務
ボランティアセンターでの相談対応件数 125件
- ◆災害ボランティア派遣等業務
12月8日～12月9日 輪島市へボランティア5名を派遣

(5) ボランティア組織化事業

◆ボランティア連絡協議会への協力支援

ボランティア連絡協議会助成金	805,000円
ボランティア活動交付金	25,000円×15団体
	10,000円×1団体
ボランティア事業助成金	50,000円×0事業
	20,000円×2事業
	7,000円×1事業

◆ボランティアグループへの協力支援

◆ボランティアグループの組織化

新規ボランティアグループ登録 1団体

(6) 活動基盤整備事業

◆ボランティア保険の取り扱い

ボランティア活動保険加入者数	711人
ボランティア行事用保険	197件 6,122人

◆各種助成制度の利用促進

ボランティアセンター登録団体の各助成金制度利用 1件

【まとめ】

- 5年ぶりに開催したけやきフェスタは、福祉・健康・文化それぞれの啓発を行い、大勢の方に来場いただけた。ボランティアグループによる福祉体験コーナーやバザーも好評で、今後の活動意欲の向上にもつながったと思われる。
- SNSをほぼ毎日更新し、社会福祉協議会の情報だけではなく福祉や町に関連する情報も盛り込んで、啓発活動を行っている。
- 福祉協力校事業は、福祉協力校に事業助成を行い、各校で福祉教育の取り組みが行われた。各依頼に合わせて障がい当事者やボランティアグループの協力を得ながら実施することができた。
- 令和6年度のボランティア養成講座は点訳の講座を開講し、新規ボランティア加入につながった。
- 新たにボランティア活動を行っていきたい方への立ち上げ支援を行った。新規で1団体立ち上げることができた。
- 能登半島地震に関する災害ボランティアの活動保険受付を行った。また、職員5名が輪島市で災害ボランティア活動にあたり、現場での災害ボランティア活動と災害ボランティアセンター運営について体験することができた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-3
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	ふれあいのまちづくり事業		

【事業報告】

(1) 地域福祉活動推進事業 **重**

◆菰野町地域福祉活動計画・菰野町社会福祉協議会発展強化計画の推進 **重**

(2) 小地域福祉ネットワーク事業 **重**

◆小学校区単位の小地域活動実践

生活支援体制整備事業（管理No.2-1-12）に記載

竹永地区福祉会たすけあい♥竹永の活動支援

理事会 5回 参加者 延べ77人

交流事業部行事

ウォーキング 2回 参加者 延べ54人

盆踊り

鵜川原地区福祉会ふれあい鵜川原の活動支援

鵜の里茶の間 12回 参加者 延べ438人

◆地区福祉懇談会の開催

菰野地区 参加者 37人

鵜川原地区 参加者 17人

竹永地区 参加者 14人

朝上地区 参加者 28人

千種地区 参加者 21人

◆小地域ふれあいネットワーク事業の推進 **募**

①ふれあい弁当事業の実施（センター方式、地区別方式）

センター給食 2, 369食

ボランティア 延べ238人（配達は民生委員）

各地区のふれあい弁当 菰野地区 459食

鵜川原地区 211食

竹永地区 160食

朝上地区 752食

千種地区 331食

ボランティア 延べ639人

②ふれあいネットワークの集いの開催

○一人暮らし高齢者の集い・お楽しみ会（センター給食利用者対象）

1回開催 参加者 39人

○ふれあいネットワークの集い

菰野地区 参加者 56人

鵜川原地区 参加者 50人

朝上地区 参加者 36人

千種地区 参加者 39人

③介護者の集い

1回開催 参加者 6人

◆日常生活再生支援事業の実施

実施なし

(3) 地域福祉活動モデル事業

◆調査研究

実施なし

◆先駆的・開拓的サービスの開発

地域住民の集いの場づくりへの支援

・鶉の里茶の間

活動回数 12回 参加者数 延べ417人

・永井交流サロン

活動回数 4回 参加者数 延べ61人

◆住民参加型在宅福祉サービスグループへの支援 **募**

①活動支援

・いいね！大羽根地域まごころサポートサービス

利用会員 20人 提供会員 24人 賛助会員 15人

年間活動時間 764.5時間

定例会 毎月第1水曜日 12回開催

・くらしサポートこもの愛の手

利用会員 9人 提供会員 10人

年間活動時間 356時間

定例会 毎月第2木曜日 12回開催

・たすけあい♥竹永

利用会員 9人 提供会員 24人 賛助会員 3人

年間活動時間 183時間

定例会 原則毎月第2火曜日 12回開催

・朝上ささえ愛

利用会員 28人 提供会員 35人 賛助会員 1人

賛助団体 2団体

年間活動時間 308時間30分

定例会 12回開催

・地域サポーターの会ちくさ

利用会員 26人 提供会員 12人 賛助会員 5人

賛助団体 2団体

年間活動時間 827時間

定例会 毎月第2火曜日 12回開催

②各グループ助成金 30,000円×5グループ

◇地域助け合い活動推進助成事業の実施

いいね！大羽根	助成金	23,000円
くらしサポートこもの愛の手	助成金	13,000円
たすけあい♥竹永	助成金	23,000円
朝上ささえ愛	助成金	37,000円
地域サポーターの会ちくさ	助成金	17,000円

(4) 地域福祉活動支援事業および推進事業

- ◆青年学級（勤労軽度知的障がい者の集い）の実施
4回開催（生活交流会と合同開催） 参加者 延べ35人
- ◆在宅重度障がい者「生活交流会」の実施
7回開催 参加者 延べ 12人
- ◆安心安全対策事業の実施 **募**
災害ボランティアセンター設置運営訓練
2回開催 参加者 延べ 91人
- ◆小地域ふれあいサロンの開発運営および自立支援
サテライトデイサービス事業（管理No.2-1-5）に記載
- ◆福祉車両貸出事業の実施 **募**
貸出件数（車両3台） 延べ295件
- ◆福祉機器貸出事業の実施 **募**

車いす	158件
ポータブルトイレ	30件
シャワーチェア・浴槽台・浴槽手すり	31件
床置き型手すり	12件
杖・松葉杖	12件
歩行器・歩行車	20件
スロープ	3件

(5) ふれあい相談センター

- ◆ふれあい相談センターの運営

①一般相談	心配ごと相談	51日	26件（面接26件、電話0件）
	一般何でも相談	22日	14件（面接14件、電話0件）
②専門相談	法律相談	12日	95件
	人権相談※	51日	（心配ごと相談に含む）
	行政相談※	12日	（心配ごと相談に含む）
※役場総務課主管			
③職員による相談対応			49件（面接7件、電話42件）

【まとめ】

- 令和5年度に策定した菰野町地域福祉活動計画（5か年）に基づき、各事業を

実施した。

- 小学校区単位の小地域活動として、「たすけあい♥竹永」（竹永地区）では5年ぶりに「盆踊り」（以前は夏祭り）を開催した。子どもからシニアまでが集い、大いに賑わった。その他にもウォーキングを昨年に引き続き開催し、参加者同士の交流の場となる行事を行った。また鶴川原地区では、住民同士のつながりの形成を目的に「鶴の里茶の間」を行った。運営を主体的に行うボランティアが企画した創作活動や運動を中心に、参加者同士の交流を図った。子どものおやつづくりの企画は、多世代で交流することができた。
- 介護者の集いについて、令和6年度は介護者自身のリフレッシュをテーマに講師を招き、「己書」づくりと座談会を開催した。座談会では介護者同士日々の悩みやリフレッシュ方法を話し合う場を設けた。
- 地区福祉懇談会では、「防災を通じて地域福祉を考える」をテーマに地域での助け合いの必要性を改めて考えていただき、災害ボランティアセンター運営設置訓練の実施につなげることができた。
- ふれあいネットワークの集いは、全地区を対象にした一人暮らしの高齢者の集いと各地区の特色を生かした集いを開催した。運営にあたっては、ボランティアの協力を得ながら進めた。
- センター給食サービス（センター方式）とふれあい弁当サービス（地区別方式）は地域の見守りや孤立死の防止、早期発見の役割を担っているが、全体の配食数は減少傾向にある。ふれあい弁当サービスでは、令和5年度同様、活動するボランティアの高齢化・人手不足が課題となっている。また体調不良でボランティア活動を休んだり、辞めたりする方も多かった。
- 住民参加型在宅福祉サービスグループの活動を支えるため、住民参加型在宅福祉サービス助成金および地域助け合い活動推進助成金の交付し、継続的な運営支援を行った。
- ふれあい相談センター業務については、法律相談の件数が増加し、特に相続や土地に関する相談が多かった。心配ごと相談や人権相談は、相談内容が幅広くなってきたことから、地域包括支援センターと人権擁護委員、民生委員が連携して対応する事案があった。
- 青年学級は生活交流会と合同で4回開催した。参加者に魅力的な行事を計画し、参加者数の増強に努めたことで、令和5年度よりも参加者は増えた。
- 災害ボランティアセンター設置運営訓練を職員向けに2回実施し、その内1回は民生委員児童委員62名の協力を得て実践的な訓練を実施した。
- 福祉車両貸出事業は少しずつ認知され、貸出件数も年々増加している。
- 福祉機器貸出事業は、車いすは貸出希望が多い機器であるが、令和6年度は子ども用やリクライニング式の車いすも整備したことでより細やかに要望に応えられるようになった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-4
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	福祉資金貸付事業		

【事業報告】

(1) 生活困窮者支援事業

◆菰野町社会福祉協議会福祉資金の貸付、償還指導

貸付決定件数 0件

貸付決定額 0円

◆三重県社会福祉協議会生活福祉資金の貸付取り扱い、償還指導

貸付相談件数 延べ168件

貸付決定件数 13件

貸付決定額 1,631,000円

<内訳>緊急小口資金 9件 460,000円

臨時特例 0件 0円

福祉費 3件 241,000円

教育支援資金 1件 930,000円

◆三重県社会福祉協議会生活相談支援センターへの協力

生活困窮に関する相談があった際、センターと情報共有しながら、窓口相談や自宅訪問など自立に向けた支援を行った。

◆家計相談事業の実施

相談件数 0件

◆各種相談窓口の紹介

相談内容に応じて各種相談窓口への紹介を行った。

◆寄贈食料品や日常生活用品等の生活困窮者への支給

コープみえ等の協力をいただいて、他制度につながるまでの緊急時の食糧や日用品を生活困窮者に配布している。また、地域福祉事業でも活用している。

【まとめ】

- 令和6年8月と12月に、コロナ特例貸付後のフォローアップ支援事業として、県社会福祉協議会の職員と借受人の自宅を訪問した。現在の生活状況を聞き取りすると、今もまだ生活が苦しく償還が難しいとの回答が多かった。今後の償還の見直しや、免除ができる場合は申請を行った。また、不在だった借受人にはチラシをポスティングした。
- 寄贈食料品や日常生活用品等の生活困窮者への支給が、生活保護支給決定までのつなぎとしての支援や、生活再建までの一時的な支援となっている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-5
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	共同募金事業		

【事業報告】

(1) 共同募金事業

◆共同募金委員会の開催

1回開催

◆共同募金運動の実施

目標額（一般募金）	5,963,300円
（歳末たすけあい）	250,000円
（合計）	6,213,300円
実績額	6,497,416円
	（達成率104.6%）

＜内訳＞戸別募金	5,797,384円
学校募金	54,484円
職域募金	279,330円
法人募金	50,000円
イベント募金	121,293円
個人募金	194,712円
その他（UMOJ募金、利息）	213円

◆歳末助け合い運動の実施 **募**

- ・一人暮らし高齢者への歳末もち配布事業

慰問品であるのし餅を町内の事業者に発注し、菰野町民生委員児童委員協議会の協力により、70歳以上の一人暮らし高齢者483人に配布した。

【まとめ】

- 令和5年度より募金実績額は下回ったものの、目標額は上回る結果となった。戸別募金については令和6年度も区長会の協力を得て、ほぼ従来どおりの協力を住民から得られた。学校募金については町内7つの小中学校で募金活動に取り組んでいただいた。職域募金や個人募金については、バッジ募金やガチャガチャ募金を通じて多くの方に協力を得ることができた。
- 令和6年度は全地区のふれあいまつりや町文化祭に参加し、共同募金の啓発を行い募金活動に取り組んだ。
- 啓発用のポスターや動画を視聴してもらうため二次元コードを活用し、配分金の活用等の周知に努めた。
- マッサージ機募金が令和6年度で終了するため、新たな募金方法を検討することが必要である。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-1
	拠点区分	受託事業	決算書	84頁
	サービス区分	日常生活自立支援事業		

【事業報告】

(1) 日常生活自立支援事業 **三重県社会福祉協議会から受託** **重**

◆菰野町日常生活自立支援センターの運営

利用者数 38名 (令和7年3月末時点)

援助回数 延べ883回

<内訳>生活支援員 572回

専門員 311回

生活支援員 5名 (令和7年3月末時点)

主な支援内容

定期的な面会、預貯金の払い戻し・預入、生活費の代行支払書類等預かり

(2) 権利擁護業務

◆法人後見業務

◆法人後見委員会の開催

権利擁護事業 (管理No.1-1-1) に記載

【まとめ】

- 年々、独居で親族との関係が希薄な利用者が増加している。独居者で様々な問題を抱えている場合には、関係機関と連携し支援を行った。
- 令和6年度は、独居者が緊急搬送されて、急遽支援が必要になるケースが続いた。複数の未払いの確認と支払い代行や、行政手続きの申請代行など、一人の利用者に対して必要な支援が多く、業務の負担が大きい。
退院後は入所せざるを得ない状況で、結果的に入所までのつなぎ支援となるケースが定期的に発生している。
- 当事業に対しては、利用者や関係機関から、入院・入所時の緊急連絡先や身元引受人等の、家族のような役割を期待されていると感じる。
また、確定申告や株式購入時の振込といった、支援範囲外の対応を希望する利用者もあるが、他に頼める知り合いもおらず、対応に苦慮している。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-2
	拠点区分	受託事業	決算書	84頁
	サービス区分	老人福祉センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町老人福祉センター **町から受託**

◆老人福祉センターの運営

開館日数	305日
台風による休館	1日
大雪による休館	0日
一般浴利用者数	延べ58,002人(一日平均190人)
歩行浴利用者数	延べ8,147人(一日平均27人)
音楽室利用者数	延べ3,046人(一日平均10人)

※ 令和6年10月8日より利用再開

◆けやき講座の開催

コーラス、伊勢型紙、陶芸、ステンシル、俳句、フォークダンス	延べ162回	延べ1,600人
初心者向けヨガ教室	38回	延べ556人

◆温泉スタンドの運営協力

【まとめ】

- 令和6年6月から、一般浴と歩行浴は地区による利用制限を設けず利用できるようにした。また、教養娯楽室やしらゆりロビー前についても、令和6年6月から囲碁・将棋のみならず食事や憩いの場として利用を再開した。
- 音楽室は、令和6年10月から利用を再開した。
- けやき講座は、令和6年度から再開したコーラスをはじめ、6講座を5月から開講した。コーラスとフォークダンス以外の講座については1年をかけて取り組んだ集大成として作品展示を行い、けやき来館者に鑑賞いただいた。
- 一般浴や歩行浴の利用者の心身の状態の変化を気にかけており、医療や介護の対応が必要な場合には、地域包括支援センターなどの相談機関につなげた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-3
	拠点区分	受託事業	決算書	84頁
	サービス区分	ファミリーサポートセンター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ファミリー・サポート・センター **町から受託**

◆ファミリー・サポート・センターの運営

サポート会員講習会の開催（全5回） 受講者数8人 延べ40人

依頼会員の募集

赤ちゃん訪問、ブックスタート、各種健診、ひろば、子育てサロン、
子育て支援センター（月1回土曜日開催）、広報紙等での周知。

サポート会員と依頼会員のコーディネート

会員数 1,009人

＜内訳＞依頼会員 723人（土曜日登録数8人）

サポート会員 206人

両方会員 80人

活動件数 939回

＜内訳＞保育施設の保育開始や保育終了後の送迎・預かり 306回

学童開始前や終了後の子どもの送迎・預かり 61回

学校の放課後の子どもの送迎・預かり 62回

保護者等の外出・リフレッシュ 97回

保護者の短時間・臨時的就労の送迎・預かり 53回

子どもの習い事等 49回

障がいを持つ子どもの送迎・預かり 98回

小学校の朝の送迎 195回

その他 18回

サポート会員フォローアップ研修開催 参加者数12人

サポート会員と依頼会員の交流会開催 参加者数75人

【まとめ】

- 新規サポート会員講習会は、8名の受講希望があった。
- 依頼会員の登録は随時あり、月1回の土曜日の子育て支援センターでの登録会のほか、ブックスタート等子育て支援事業の都度、その場で顔の見える関係で安心して登録できることが高い評価を得ている。
- 令和6年度の特徴は、保育施設開始前や終了後の送迎や預かりの件数が増えている。理由としては、両親の勤務の都合上、保育施設開始または終了後までに勤務が終わらず、ファミリー・サポートを利用するケースが増えている。
- 子どもの習い事等への送迎のケースも増えている。両親が、働きながら子どもを習い事へ通わせることが背景にあると思われる。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-4
	拠点区分	受託事業	決算書	84頁
	サービス区分	子育て支援事業		

【事業報告】

(1) 子育て地域支援事業 **町から受託** **重**

◆子育て支援事業の実施 **募**

子育てサロン（ここっと。）の実施

菰野地区	7回	延べ97人
鵜川原地区	7回	延べ85人
竹永地区	7回	延べ64人
朝上地区	7回	延べ36人
千種地区	7回	延べ133人
計	35回	延べ415人

子育て支援者およびグループの育成

パピ♡ママ講座（全2回）

1回目：24人 2回目：21人

子育て支援行事の実施

① ベビーマッサージ（産後のリフレッシュ体操）の開催

6回実施 参加者数 48組

② 子育て支援の啓発（子育て通信「こもっ子 mama」の発行）

年4回（春・夏・秋・冬）全戸配布

◆子育て世帯訪問支援事業（旧：養育支援訪問事業）の実施

訪問回数	120回
訪問時間	186時間
利用人数	7人
訪問スタッフ	3人

◆伴走型相談支援教室事業の実施

たまぴよ広場の開催 12回 延べ149人（対象者222人中）

【まとめ】

- 各地区の子育てサロンについては、令和6年9月から各地区で月1回「ここっと。」として開催している。居住地区に限らず、どこの地区にも参加可能にし、また親だけの参加も可能と枠を広げたことで参加しやすい形態となった。地区により参加人数等に変動はあるものの、参加者同士が心地よく交流している様子が見られた。
- 子育て世帯訪問支援事業については、入園前の子どもの生活リズムを整えるとともに、母親の心身の安定につながる重要な支援であるが、キャンセルを含め短期で終了するケースが多く訪問回数・時間は減少した。また制度改正に伴う利用料の発生も継続利用の壁となっている。
- 伴走型相談支援事業（たまぴよ広場）については、妊娠8ヵ月の出産を間近に控えた妊婦が対象で、参加率は67%であった。参加者のアンケートに基づいて

専門職による相談や出産後の子育て情報を知る機会となり、経済的支援も受けられる有益な教室であることを、子ども家庭課とともに周知徹底していく必要がある。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-1
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	介護保険事務		

【事業報告】

- ◆介護保険等の給付管理業務
- ◆介護保険等の請求業務

【まとめ】

- 返戻や再請求が生じた場合には、原因を解明して再発防止に努めた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-2
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	訪問介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

◆訪問介護事業（介護保険・総合事業）の実施

◎訪問介護

稼働時間	7, 565時間
身体介護	5, 908時間
身体生活	1, 475時間
生活援助	182時間
契約者数	新規契約 47人
	契約終了 41人
内訳	長期入院入所 23人
	終末期（6か月未満） 11人
	他サービスに移行 5人
	その他 2人
	契約者数（令和7年3月末時点） 53人

◎第一号訪問事業（総合事業）

稼働時間	884時間
	（菰：635時間・四：249時間）
契約者数	新規契約 10人（菰7・四3）
	契約終了 7人（菰6・四1）
内訳	長期入院入所 1人
	死亡 1人
	他サービスに移行 6人
	その他 0人
	契約者数（令和7年3月末時点） 12人（菰8・四4）

【まとめ】

- 訪問介護の特性上、急な依頼や内容・時間の変更が多く、専門的な判断をしながら臨機応変に対応した。
- 介護保険の制度上、サービス内容に制約がある家事支援等の生活援助については、有償ボランティアや住民参加型在宅福祉サービスなどの利用により、生活援助の利用が減少したことが一因と考えられる。認知症の利用者のケースにおいては、自立支援を目的としての身体介護サービス利用が定着している。
- 令和5年度と比較すると契約者数は訪問介護では同数、第一号訪問事業では3人増加した。稼働時間は訪問介護では5%減少、第一号訪問事業では3%増加した。契約者数、稼働時間ともに令和5年度とほぼ同じであるが、減収となったの

は令和6年4月の介護保険の報酬改定により訪問介護の単価が下がったことが一因と考えられる。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-3
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	通所介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町デイサービスセンターけやき

◆通所介護事業（介護保険・総合事業）の実施

開所日	157日
契約者数	0人（令和7年3月末時点）
新規	0人
終了	52人
利用者数	延べ40人
内訳	介護 38人
	総合事業 2人

◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	157日
契約者	3人
利用者数	延べ17人

【まとめ】

- 令和6年9月30日でデイサービスを休止することが決定し、令和6年6月末ですべての利用者を他事業所につなぐことができた。
- 日中一時支援事業についても、令和6年5月末までに、他の事業所へつなぐことができた。
- 令和6年9月30日付で休止届、令和7年3月31日付で廃止届を三重県と菰野町へ提出し受理された。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-4
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	居宅介護障害事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

◆居宅介護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間	4, 002時間
身体介護	3, 400時間
通院介助	228時間
家事援助	374時間
回数	5, 310回
身体介護	4, 597回
通院介助	114回
家事援助	599回

新規契約 0人

契約終了 1人

内訳 入院入所 1人

死亡 0人

他サービスへ移行 0人

利用者数 29人

内訳 身体障害者 8人

知的障害者 10人

障害児 3人

精神障害者 8人

◆同行援護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 382時間 回数 258回

新規 1人

終了 0人

利用者数 4人

◆移動支援事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 667.5時間

回数 197回

利用者数 21人

【まとめ】

- 居宅介護の新規利用者はなかったが、令和5年度と比べ稼働時間は11%増加、回数は35%増加した。
- 同行援護は、新規利用者が1名あり、通院や社会参加の機会の一助を担ってい

る。

- 移動支援は、新型コロナウイルス感染症第5類移行前からの利用者の再開希望があり、令和5年度に比べ稼働時間は45%、回数は20%増加したが、以前の状況には戻っていない。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-5
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	相談支援事業		

【事業報告】

(1) 菰野町障がい者虐待防止センター **町から受託**

◆障がい者虐待防止センターの運営

通報件数	9件
＜内訳＞身体的虐待	5件
心理的虐待	1件
経済的虐待	0件
性的虐待	3件

(2) 菰野町居宅介護支援事業所けやき

◆特定計画相談支援・障害児相談支援事業（障害福祉サービス）の実施

給付対象者数	181件（令和7年3月末時点）
＜内訳＞障がい者	145件
障がい児	36件
給付管理数	延べ747件

◆障害支援区分認定調査（障害福祉サービス）の実施 **町から受託**

認定調査数	46件
＜内訳＞町内	42件
町外	4件

【まとめ】

- 障がい者虐待防止センターの運営については、行政や障がい者相談支援センター、相談支援事業所、警察、病院などの関係機関と連携して虐待の早期発見・解決を図った。施設職員による利用者への注意の言葉がけや性的な行為、家族からの暴力について、本人やサービス事業所、相談支援事業所からの通報が入り、いち早く行政に報告し対応を行った。
- 要医療児者支援体制加算Ⅰと精神障害者支援体制加算Ⅰの申請を行い、加算が取れるようにした。今後、高次脳機能障害者支援体制加算についても取れるようにしていきたい。
- 四日市圏域の相談支援部会に出席し、障害支援に関する研修や事例検討に参加して研鑽を積んできた。また、他の相談支援事業所との情報連携にも今後も努めていきたい。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-1
	拠点区分	わかば作業所	決算書	105頁
	サービス区分	就労支援事業		

【事業報告】

(1) 菰野町わかば作業所

◆就労継続支援B型事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	246日
利用者数	28人（令和7年3月末時点）
新規登録者	2人
削除者	1人
利用人数	延べ5,143人
利用者平均工賃	25,337円/月
ボランティア数	延べ200人

◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

利用日数	0日
契約者数	0人（令和7年3月末時点）
利用者数	0人

【まとめ】

- 多様な障がい種別の利用者を受け入れており、それぞれに応じた柔軟な支援を行った。
- 令和6年度は新規利用者が2人増えたが、1名が令和6年度末に施設入所となり28名の登録となった。年間利用延べ人数は132人の増であった。
- 就労事業の内職作業では、物価高騰による包装資材のコストカットの影響で段ボール作業の受注がなくなり、作業機会が減少した。一方で、行政からの請負作業である認定こども園の草刈り作業や庁舎トイレ清掃が増え、利用者の作業機会の確保と安定的な工賃収入につながった。
- 日中一時支援は、令和6年度の利用申込みがなかった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-2
	拠点区分	わかば作業所	決算書	105頁
	サービス区分	生活介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町わかば作業所

◆生活介護事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	243日
利用者数	14人（令和7年3月末時点）
新規登録者	0人
削除者	0人
利用人数	延べ2,598人
利用者平均工賃	3,137円/月
ボランティア数	延べ31人

【まとめ】

- 生活介護事業での行事については、通常どおり実施できた。
- 利用登録者数は令和5年度と変わらず14人であったが、生活リズムの乱れや体調不良により欠席が増えた利用者もいたことから、年間の延べ利用者数が14人減となった。今後、家族とも連携を行い利用者が生活リズムを整え、安定して利用できるよう支援していく。
- 生活介護事業の内職作業が取引先の仕事量が減少したことで、作業収入は減収となった。今後、利用者が取り組める内職作業の獲得が課題である。
- 令和6年度は新規作業として、YOU 四日市紙面へのチラシ折り込み作業やポスティング作業を受注することができた。
- 新規利用者の獲得を目指して、特別支援学校や町内中学校の生活支援学級などへ活動のアピールを行い、将来的な新規利用につながるよう引き続き取り組んでいく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-1
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	社会福祉大会事業		

【事業報告】

(1) 社会福祉関係者等の顕彰

◆菰野町社会福祉大会の開催 **町から受託**

令和6年9月7日(土) 菰野町町民センターホール

第1部 式典(顕彰) 被表彰者 47人

第2部 記念講演 講師: 押味愛里沙氏

(NPO 法人全国ラジオ体操連盟指導委員)

演題「ラジオ体操のチカラ」

◆叙勲、全国社会福祉大会、三重県社会福祉大会等の顕彰推薦

○厚生労働大臣表彰

福祉事業従事者功労者 1名

○三重県福祉関係功労表彰(知事表彰)

福祉事業従事者功労者 2名

○三重県社会福祉大会

三重県共同募金会会長表彰 共同募金運動優良地区・団体 1地区

共同募金運動奉仕功労者 2名

【まとめ】

- 第2部の記念講演は、来場者も一緒に身体を動かしながら健康を意識できる内容で、大変好評だった。
- 表彰や記念講演後の記念撮影は壇上で行っているが、階段の昇降が不安定な方もおり、事故防止に向けた対策を検討する必要がある。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-2
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	受託ヘルパー事業		

【事業報告】

(1) 在宅高齢者生活援助員派遣事業 **町から受託**

◆ふれあいヘルプサービス事業の実施

福祉票総数	779件
<内訳>一人暮らし世帯	501件
高齢者世帯	149件
高齢者のいる世帯	83件
障がい者世帯	43件
その他	3件
訪問回数	7,408回
<内訳>一人暮らし世帯	6,690回
高齢者世帯	479回
高齢者のいる世帯	213回
障がい者世帯	26回
その他	6回
相談件数	
<内訳>対象者からの相談	23件
行政機関等との相談	72件
民生委員との相談	727件
家族近隣等との相談	11件
緊急対応等	10件
医療等関係機関との相談	60件
その他の相談	2件

【まとめ】

- 福祉票提出世帯の見守りについて、原則として一人暮らし世帯は月に一度、高齢者世帯は2か月に一度、高齢者のいる世帯は3か月に一度、それ以外の世帯は適宜訪問した。それにより安否確認や日常生活の相談や緊急対応等を行った。
- 訪問対象者から受けた相談は、必要に応じて地域包括支援センターや行政、病院、民生委員、家族などと連携して支援している。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-3
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	地域包括支援センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町地域包括支援センター **町から受託** **重**

◆地域包括支援センターの運営

①総合相談支援業務の実施

相談および支援の相談件数	17,432件
＜内訳＞ 予防給付	13,173件
ハイリスク	56件
総合相談	3,652件
介護用品	73件
住宅改修	53件
虐待ケース	143件
権利擁護	37件
消費者問題	10件
困難ケース	71件
病院	107件
障がい相談	57件

②権利擁護相談支援業務の実施

高齢者虐待通報人数	5人
虐待ケース相談	143件
権利擁護相談	37件
消費者問題相談	10件

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の実施

ケース検討会議	5回	延べ52人
---------	----	-------

④介護予防ケアマネジメント業務の実施

介護予防給付等の給付管理数	延べ3,771件
---------------	----------

⑤その他

介護サービス担当者会議	6回
医療・介護ネットワーク会議	4回
医療・介護ネットワーク研修会	3回
在宅医療講演会	1回
四日市看護医療大学実習受入	3日×2クール 7名

◆認知症支援事業の実施

菰野町SOSネットワーク事業

＜内訳＞登録者数	49人 (令和7年3月末時点)
搜索協力者数	341人 (令和7年3月末時点)

認知症初期集中支援チーム

＜内訳＞支援対象	0人
その他	2人
チーム員会議	0回
検討委員会	0回

認知症サポーター養成講座	1回	延べ92人
けやきでお茶のみ会	10回	
傾聴ボランティア活動	25回	延べ25人

【まとめ】

- 身寄りのない認知症の利用者や、ハラスメント行為のある精神疾患の相談者など、対応困難なケースについては複数の職員で対応した。
- 高齢者虐待疑いの対応件数は増加しており、コア会議への参加や家族への聞き取り、施設入所の調整などを担当ケアマネジャーとともに行った。虐待者が精神疾患や軽度の知的障がいなど複合的な問題を抱えているケースもあり、世帯全体へのアプローチすることで虐待状況の解消を図った。
- 認知症支援については、近隣の認知症疾患医療センターと連携し、支援困難な認知症の方の早期診断への橋渡しや早期対応に努めた。
- 介護者の支援としては、介護に役立つ社会資源の紹介や介護者への傾聴などを行い、介護負担の軽減などの対応にあたった。
- 医療介護ネットワーク会議や研修を通じ、顔の見える関係づくりと医療や社会資源などの知識向上を図った。
- 病院の地域連携室連絡会で情報交換を行い、入院患者が安心して地域移行できるよう共通認識を深めた。
- 令和6年度から四日市看護医療大学の実習の受け入れを行った。地域包括支援センターにおける保健師（看護）業務についての実習指導をし、地域保健医療福祉従事者における人材育成に努めた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-4
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	配食サービス事業		

【事業報告】

(1) ひとり暮らし老人等配食サービス事業 **町から受託**

◆配食サービスの実施

昼、夕食（月～土）の訪問給食サービスの実施

実施日数 308日

利用者登録数 55人

（内、利用料減免対象者15人）

配食数 9,861食

<内訳>昼食 3,564食（一日平均1.2食）

夕食 6,297食（一日平均2.1食）

【まとめ】

- 利用登録者数は、令和5年度より増加したが、入院や施設入所により短期で終了するケースもあり、配食数の増加にはつながらなかった。
- 居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して配食事業の周知を図った。
- 利用者の状況に合わせてお粥や刻み食を提供した。服薬確認を必要とする利用者には、配達時に薬の用意や服薬確認を行った。また、弁当箱を居室のテーブルまで運ぶなど、利用者に応じた対応を行った。
- 配食サービス事業を通じ利用者の体調および安否確認を行い、利用者の在宅生活の一助となった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-5
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	サテライトデイサービス事業		

【事業報告】

(1) サテライト型デイサービス事業 **町から受託** **重**

◆高齢者ふれあい・いきいきサロンの運営支援

いきいきサロン実施	30箇所	306回
参加者	延べ3,	978人
地域の茶の間実施（毎週型のサロン）	2箇所	150回
参加者	延べ2,	219人

◆いきいきサロン交流会の開催

いきいきサロン交流会	1回	58人
------------	----	-----

【まとめ】

- いきいきサロンの運営については、それぞれのサロンの主催者が内容を考え、地域独自の活動ができています。年間計画を立てるにあたっては、参加しやすく、参加者の年齢に配慮した内容を提案するなどの支援を行った。
- 参加者の高齢化により参加者数の減少がみられる地区もある。一方で会場までの移動が困難な場合には、地区独自で送迎などを工夫しているところもある。
- ほとんどのいきいきサロンや茶の間が運営を続けているが、担い手不足や参加者の減少などの理由で開催が難しく休会するところもでてきている。
- いきいきサロンの主催者ごとで地区の回覧経路が異なるため、開催日程が地区全体に周知されていないことがある。地区の理解を得ながら周知方法を改善できるよう働きかけている。
- 平成26年以来のいきいきサロン交流会を開催し、脳の活性化や認知機能や運動機能の向上が期待される「シナプソロジー体験」を実施した。グループワークを取り入れるなど、他地区サロン参加者と交流する機会となった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-6
	拠点区分	受託事業	決算書	119頁
	サービス区分	介護予防事業		

【事業報告】

(1) 介護予防教室事業 **町から受託**

◆運動機能向上事業への協力

はつらつ体力づくり教室 短期集中予防サービス (4コース)
170回 延べ739人
(フォローアップ参加者含む)

◆栄養改善事業への協力

協力実績なし

◆口腔機能向上事業への協力

協力実績なし

◇一般介護予防教室への協力

認知症予防事業

にこにこアップ教室	8回	延べ62人
にこにこアップ教室OB会	12回	延べ248人
フレイル予防教室	7回	延べ61人

【まとめ】

- はつらつ体力づくり教室については、生活機能や体力に応じて訓練内容を分けられるようコースを増設した。
利用者の状態としては、運動機能だけではなく、栄養状態や認知機能の低下、閉じこもり傾向など複合的な課題を抱える、フレイル状態の方が増えてきており、それに伴い送迎ニーズが高くなっている。
- 定期的な通所事業の利用により、人と人との交流を体験し、コース終了後は、地域活動や一般介護予防事業への移行や日常生活における活動量の増加につながるよう、教室での案内や声かけを行っている。
- 町健康福祉課事業である「認知症当事者とその家族のためのつどい『ココからcafé』」の運営をサポートしている。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-7
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	いきいき拠点整備調査事業		

【事業報告】

(1) 多機能型高齢者いきいき拠点整備調査事業 **町から受託**

◆介護予防機能強化型サロンの実施

菰野地区みんなの運動サロン	24回	延べ1,176人
鶺川原地区みんなの運動サロン	24回	延べ470人
竹永地区みんなの運動サロン	24回	延べ693人
朝上地区みんなの運動サロン	22回	延べ515人
千種地区みんなの運動サロン	23回	延べ574人
計	120回	延べ3,428人

◇動楽サロンの開催支援

動楽サロン（中菰野）	44回	延べ1,207人
------------	-----	----------

(2) 介護予防支援員養成事業 **町から受託**

◆お元気サポーター事業の実施

千種地区コミュニティセンター	8回	延べ176人
----------------	----	--------

◇お元気サポーター交流研修会の実施

	1回	54人
--	----	-----

(3) 認知症カフェ事業

◆認知症カフェの運営支援

認知症カフェの開催

Tomo café	10回
つながりカフェ@おじま	12回

◇認知症カフェ事業への助成金交付

Tomo café	30,000円
つながりカフェ@おじま	36,000円

【まとめ】

- 介護予防機能強化型サロン（みんなの運動サロン）については、各地区休みなく毎月2回開催することができた。口コミや広報などにより全地区で新規の参加者が増加した。のりあいタクシーを利用して参加される方も増えている。
- お元気サポーター養成講座の参加者は健康づくりの意識が高く、講座終了後はみんなの運動サロンへの参加につながっている。交流の意識も高いため、お元気サポーターが協力しあって交流の場である茶の間を開設したり、今後の開設を検討している地域もある。
- 認知症カフェ事業については、グループ主体で独自の活動が展開されるよう助

成金を交付している。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-8
	拠点区分	受託事業	決算書	121頁
	サービス区分	通訳養成研修事業		

【事業報告】

(1) 通訳者養成研修事業 **町から受託**

◆手話通訳奉仕員養成研修事業の実施

入門編40. 5時間 受講者数 20人

手話通訳奉仕員ステップアップ研修は菰野町の意向により実施見合わせとなった。

◆要約筆記奉仕員養成研修事業の実施

現任研修 手書き講座4時間 パソコン講座4時間

受講者数 延べ17人

【まとめ】

- 令和6年度は、手話通訳奉仕員ステップアップ研修の対象となる受講者が少ないことや手話通訳者の養成における費用対効果が再検討された結果、菰野町の判断で開催されなかったため、四日市市で開講されることを修了者に案内した。
- 手話通訳奉仕員養成講座基礎編を開講し、受講者20名のうち17名が修了した。
- 要約筆記奉仕員養成研修は、現任奉仕員から事前に研修内容について要望を聞き、講師に伝えることでより実践的な内容の研修となった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-9
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	生活支援体制整備事業		

【事業報告】

(1) 生活支援体制整備事業 **町から受託** **重**

◆生活支援コーディネーター事業の実施

各地区対応件数

菰野地区	延べ134件
鵜川原地区	延べ48件
竹永地区	延べ187件
朝上地区	延べ235件
千種地区	延べ60件

福祉相談窓口（13時30分から16時）

菰野地区	木・金曜日	100日
鵜川原地区	火・金曜日	100日
竹永地区	月・木曜日	89日
朝上地区	火・水曜日	101日
千種地区	月・水曜日	98日

- ・住民の助け合い活動についての相談とサポート
- ・地区民生委員児童委員協議会活動への対応
- ・介護認定や在宅介護に関する相談等受付
- ・介護認定非該当や精神疾患でサービス利用がない方へのサポート
- ・生活支援ニーズの把握
- ・地域ボランティアの活動サポート

【まとめ】

- 生活支援コーディネーターが、各地区コミュニティセンターへ定期的に赴くことにより社会福祉協議会の活動拠点が確保され、住民同士の助け合い活動の支援が行いやすくなっている。
- コミュニティセンター運営委員会への参画や、公民館との連携、区との協働体制が取れるようになった。
- 民生委員児童委員協議会の地区担当を生活支援コーディネーターが担うことで、相談窓口が明確になり、相談や連携が取れている。
- 住民の困りごとを住民の身近な場所で把握し、支援できるようになった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-10
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	精神デイケア事業		

【事業報告】

(1) 菰野町在宅精神障害者支援事業 **町から受託**

◆フリースペースの実施

開所日数	50日
利用者数	8人
新規	0人
削除	1人
利用人数	延べ162人
ボランティア数	延べ200人
見学、実習受け入れ	延べ3人
相談件数	1件

【まとめ】

- 利用登録者の死去により利用者登録者数は前年に比べ減少している。今後、町内医療機関等へポスター掲示などを行い、活動の周知を図り利用につなげていきたい。
- 令和6年度までフリースペースの活動に協力いただいていたボランティアグループの解散を受け、令和7年度からの取り組み方法について改めて再検討を行った。フリースペースの趣旨に立ち返り、開所時間内であれば自由に利用ができるよう取り組んでいく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-1
	拠点区分	自主事業	決算書	133頁
	サービス区分	居宅介護支援事業		

【事業報告】

(1) 居宅介護支援事業所けやき

◆居宅介護支援事業（介護保険）の実施

開所日数	243日
給付管理数	166件（令和7年3月末時点）
＜内訳＞介護給付	166件
予防給付	0件
給付管理延べ数	2,134件
＜内訳＞介護給付	2,134件
予防給付	0件
職員研修	41回 129人
部内会議	51回 延べ423人

◆要介護認定調査（介護保険）の実施 **町から受託**

認定調査数	770件（在宅 408件、施設 362件）
＜内訳＞菰野町	744件（在宅 408件、施設 336件）
四日市市	9件（在宅 0件、施設 9件）
川越町	0件（在宅 0件、施設 0件）
朝日町	1件（在宅 0件、施設 1件）
鈴鹿・亀山	8件（在宅 0件、施設 8件）
その他	8件（在宅 0件、施設 8件）

【まとめ】

- 毎年暑さ、寒さが厳しい時期には利用者の長期入院や死亡が増えており、その時期には給付管理数減少が顕著になってしまうことを念頭に運営を行った。
- 介護負担が高い世帯や、複数の課題を抱えるケースでは、担当ケアマネが抱え込むことなく、関係機関と相談、連携しながら支援をするようにした。
- 集合研修の開催も増え、積極的に参加して研鑽を積むことができた。また、他事業所職員との交流もできた。Web 配信による各種研修の機会も増えており、制度や技術面の知識獲得にもつながった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-2
	拠点区分	自主事業	決算書	133頁
	サービス区分	訪問看護事業		

【事業報告】

(1) 訪問看護ステーションけやき

◆訪問看護事業（介護保険、医療保険）の実施

開設日数 259日

利用者数 延べ47人（医療保険23人、介護保険24人）

訪問回数 延べ1,787回

（医療保険1,041回、介護保険746回）

【まとめ】

- 延べ利用者数は令和5年度と変わりはないが、訪問回数は令和5年度より減少した。特に介護保険利用者の入所などにより訪問を終了したケースが多かった。新規利用者獲得のため居宅介護支援事業所や医療機関を訪問したが、思うように増えなかった。
- 職員のスキルアップについては、三重県訪問看護ステーション協議会や町内介護保険事業所向けの研修会に参加し、職員間で伝達講習を行った。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-3
	拠点区分	自主事業	決算書	133頁
	サービス区分	研修事業		

【事業報告】

(1) 職員の資質向上

◆資格取得支援

職員の有資格者数（令和7年3月末時点 職員117人中）

＜内訳＞社会福祉士資格保持者	24人
介護福祉士資格保持者	52人
介護支援専門員資格保持者	29人
精神保健福祉士資格保持者	1人
看護師資格保持者（准看護師含む）	7人
介護職員初任者研修等修了者	70人

◆各種研修への参加促進

三重県社会福祉協議会が実施する相談支援従事者研修等への参加。

(2) 居宅介護従事者養成業務 **重**

◆福祉人材育成の実施（各種研修・講座の開催と協力）

介護福祉士実務者研修の開催（ユマニテクキャリアアカデミーに協力）

開催日数 7日

受講生 8人 修了者 8人

【まとめ】

- 職員の資質向上について、専門的な知識や技術を持って援助にあたる専門職の存在は、住民や関係機関から信頼を得る上で重要である。国家資格取得など、働きながらも新たな資格の取得や資格の更新を行えるように継続して環境を整えている。
- 福祉人材養成業務については、国家資格である介護福祉士の資格取得を目指すための介護福祉士実務者研修を学校法人に協力する形で実施した。令和5年度と比べ受講生は14名減っているが、今後も介護人材不足が懸念されるため、令和7年度も研修開催への協力を継続していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-3-1
	拠点区分	ことぶき人材センター	決算書	142頁
	サービス区分	ことぶき人材センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ことぶき人材センター **町から受託**

◆ことぶき人材センターの運営

会員登録の推進

会員数（令和7年3月末現在） 97人（男59人、女38人）

就労先の開拓

受注件数 825件

会員への就労斡旋等

請負契約金額 70,929,578円

就業人員 延べ9,147人

【まとめ】

- 令和6年度の請負金額は、70,929千円で前年度比1,126千円の減額となった。令和5年度と比較すると、受注件数が増加し会員の新規事業所への就労先も新たに開拓できた。しかし、これまで数名の会員により年間を通じて安定した就労機会だった農業事業所からの請負が契約終了したことにより、年間約3,500千円の減額となった。そのため、請負契約金額総額で対前年度実績を割り込むこととなった。
- 令和6年度の単年度収支決算額は、単年度黒字額を維持できたが、収入での事業収入の減少と支出での事業経費の増加、損害賠償事故の増加による保険料支出の増加および令和5年度に施行された適格請求書等保存方式（インボイス制度）により、適格請求書発行事業者以外（免税事業者）の課税仕入れに係る控除できない消費税を1年分負担したことによる経費の増大が影響している。
高齢者福祉施策として高齢者の社会参加活動推進の観点からも、今後も就労機会が減少しないようインボイス制度については、発注者、会員、人材センターの三者による契約方法の見直しを検討し、消費税負担の軽減を図っていく。
- 企業の定年延長の影響による新規加入会員の高齢化が進むとともに、物価上昇に伴う経済的理由から会員の加入申し込みが増加しており、求める就労内容についても軽作業を主に多岐にわたっている。会員それぞれの生きがいつくりや経済的な安定に貢献できるよう、新たな就労機会の開拓が必要であり、行政や町内企業への就労機会の依頼にも努めた。

会計区分	事業区分	収益事業
	拠点区分	自主事業
	サービス区分	しらゆり事業

管理No.	3-1-1
決算書	147頁

【事業報告】

(1) 喫茶しらゆり

◆自動販売機の設置運営

自動販売機 2 台設置

【まとめ】

- 令和元年度末で喫茶しらゆりの運業者が撤退し、その後、新型コロナウイルス感染症の拡大により休業が続いていた。保健福祉センターけやき内での飲食が可能となった令和6年度においても、喫茶しらゆりの運営については未定のままであり、今後の喫茶しらゆりの活用について、菰野町と協議し検討していく必要がある。

会計区分	事業区分	その他	管理No.	4-0-0
	拠点区分		決算書	- - -
	サービス区分			

【事業報告】

(1) 各種団体事務局業務

◆菰野町民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員、主任児童委員 77人
 全員協議会（開催2回）、役員会（5回）、地区民生委員児童委員協議会
 定例会・研修会、部会活動・研修会、センター給食配達・歳末助け合い
 事業への協力、災害時安否確認訓練、県外研修（奈良県奈良市）、県民生
 委員児童委員大会、県民生委員児童委員ブロック別研修会、北勢5町民
 生委員児童委員協議会会長・事務局会議（1回）、北勢5町民生委員児童
 委員協議会研修会、広報紙「わ」発行（2回）

◆菰野町老人クラブ連合会

令和5年度菰野町老人クラブ連合会会員数 3,352人
 菰野町老人クラブ連合会単位クラブ数 31クラブ
 役員会（5回）会長会（4回）
 広報紙発行2回
 囲碁将棋大会 22人
 グラウンドゴルフ大会 142人
 こものいきいきクラブのつどい 300人
 友愛訪問 対象者数194人
 役員研修旅行 36人
 阿久比町老連との交流会 29人
 女性部クラブ活動（手芸、歌声、健康） 延べ562人
 各単位クラブ活動回数 延べ5,946回
 各単位クラブ活動参加者 延べ60,622人

◆菰野町心身障がい者福祉会

理事会（8回）、特別理事会（1回）
 障がい者の日記念のつどい、県外研修旅行、
 スポーツ大会（グラウンドゴルフ、ニュースポーツ、ボウリング）
 広報紙発行

◆菰野町母子父子寡婦福祉会

総会、役員会開催（11回）、フードドライブ事業（社協と共同実施）、
 行政との交流トーク研修、母子父子会員へクリスマスケーキ贈呈、中学
 卒業記念品贈呈、寡婦会員日帰り研修会、お便り発行

◆菰野町ボランティア連絡協議会

役員会（5回）、代表者会（4回）、研修会（6回）、総会
 所属 17グループ
 各グループ活動回数 延べ611回

【まとめ】

- 民生委員児童委員協議会については、地区民児協・各部会での活動計画に基づき、定例会や研修会を開催した。研修会は関心の高いテーマを取り上げ、情報や知識の習得につなげることができた。令和7年12月に改選を控えており、引継ぎが円滑に行われるよう情報の共有と基盤強化を図る必要がある。
- 町老人クラブ連合会については、会員数の減少と役員の担い手不足が慢性的な課題となっており、活動休止となる単位老人クラブも出ている。今後、新規会員獲得に向け、未加入者へアピールするため老人クラブ会報紙を会員外にも配布できるように準備している。
- 心身障がい者福祉会については、行事に参加する会員は特定されており参加者数は少ない状況である。また、会員の高齢化が著しく、会員数も減少しており、役員・理事の担い手確保が課題となっている。
- 母子父子寡婦福祉会については、物価高騰等の影響も受けやすいひとり親世帯への支援を行うために、フードドライブ事業を開始した。多くの親子に好評で本会の活動の充実につながった。
- ボランティア連絡協議会では、街頭募金や企画行事に加え他市町ボランティア連絡協議会との交流会を実施した。県ボランティア連絡協議会主催の研修や、ボランティアリーダー研修交流会も実施して、会員同士の親睦の場を作り、他市町ボランティアとの交流を経て会の活性化を図ることができた。